

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会を生き抜く力」を育み、地域に生きる学校づくり ―活気ある生徒の育成―

生徒が学びと努力の積み重ねの大切さに気づき、社会の一員として地域社会に貢献する意識にめざめる教育を、全日制総合学科として実践する。

- 1 「基本的な生活習慣」の確立と「規範意識の醸成」を行い、学びの習慣の大切さを気づかせる。
- 2 「働くことの意欲」、「働く意味」を醸成し、学びの大切さに気づかせる
- 3 「安全で安心な快適な学校」づくり

2 中期的目標

1 「基本的な生活習慣」の確立と「規範意識の醸成」

(1) 基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上に向け、授業規律の確立と授業ルールの順守を徹底し、学びの習慣の大切さに気づかせていく。

- ・「基本的な生活習慣を確立」させて、基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上に向け、「授業力」の改善をおこなう。
- ・「規範意識の醸成」に努めて、授業規律の確立と順守を徹底し、学びの習慣の大切さに気づかせていく
- ・本校生徒の現状を把握して「わかる、楽しい、魅力ある」授業の創造と実践につとめる。
- ・1年次の「かんたん工業」など特色ある科目で興味づけを行い、生徒の授業定着を図る。
- ・生徒一人ひとりが、望んだ進路目標に到達できるように「学ぶこと、働くこと、自分らしく生きること」の大切さを理解させ、自己肯定感や勤労観・職業観を育むことができるよう、発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育・進路指導を推進する。

(2) 生徒会活動・ボランティア活動・地域貢献の活性化

- ・社会の一員として他人のために役立つという意識の育成に向け、地域における活動やボランティア活動への参加を奨励する。
- ・地域イベントに生徒を積極的に参加させ、成果の発表を通じて自己有用感や自尊感情を高める体験をさせる。
- ・クラスマッチ・文化祭など学校行事が、教員主導型から生徒の自主的活動（生徒会など）を中心としたものになるよう改善を図る。

2 働く意欲の育成と系統的なキャリア教育の確立

(1) キャリア教育を充実させ、職業観を育成する。

- ・生徒が自己の進路を主体的に選択し、将来にわたって自己実現をはかることを目的とした年次の進路指導計画をたて、三年間を見通したキャリア教育（職業観・勤労観を養い、将来の自分の生き方について展望を持つための働きかけ）を積極的に進める。教科学習はもとより、「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」、ホームルーム活動などあらゆる教育活動が生徒自身の自己発見の機会となるようにする。
- ・進路希望調査を実施し、進路希望に応じた豊富で適切な情報を提供し、さらに適性検査等を取り入れて、自己の適性や能力を発見させるように努める。

(平成 26 年度 進路未定者数 18%→10%へ)

(2) 情報伝達・処理・応用力の重要性への気づきから、生涯にわたる学びの大切さ、表現力の大切さに気づかせる。

- ・登下校時や校内の当番で「声かけ」や「挨拶」を励行しながら、お互いの人格の尊重を自覚させるとともに、仲間意識の高揚に努める。
- ・「わかる授業」の展開や、すべての教育活動を通じて成功体験を多く積み、「自己有用性」を育成することにより、何事にも前向きに取り組む姿勢や向上心を育む教育を推進する。また、人権教育に取り組み、「他者との違い」を豊かさにして、「共に生きる」姿勢は、良き社会人として欠かせない資質であり、あらゆる機会を活用して指導する。

3 安全・安心・快適な学校づくり

(1) 生徒の健康管理と教育相談の充実

- ・学校生活を通して、生徒の自主的な保健活動の必要性を認識させ、自ら健康生活を実践する習慣、態度を培うため、生徒保健委員会の活動を促し、指導する。
- ・教育相談委員会と保健室・学年との連携を密にし、悩みを持つ生徒の把握に努めるとともに、適切な対応・助言をおこなう。

(2) 学校の危機管理意識と施設設備の改善

- ・生命の尊重、安全についての認識を深め、日常生活において安全に留意する態度、習慣を身につけるよう安全学習及び実践的な指導を行う。
- ・日常の巡視、施設・設備の安全点検を行い、危険箇所の早期発見、改善により事故防止につとめる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・【基本的な生活習慣】 今年度は段階指導の導入や授業中か全員授業を受けりことを教職員全体で取り組んだ。また、担任は声掛けや電話連絡などクラスの生徒と丁寧にコミュニケーションをとったことで、出席や遅刻が改善した。</p> <p>【生徒指導】</p>	<p>第 1 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホの指導は大きな課題になっている。単に授業中使わないということだけでなく、正しい使い方を教える必要がある。大学生が小学生にスマホの扱いを教えることで、正しい使い方を教える取り組みをしている。 ・クラブ活動の活性化について P T A の協力できるので必要があれば言ってもらいたい

府立和泉総合高等学校

<p>段階指導に取り組んだため懲戒件数そのものは増加したが、喫煙や暴力行為は減少した。</p> <p>しかし、四月当初「殺すぞ」「死ぬ」などの言葉が生徒同士の通常の会話の中で飛び交っており、現在も少なくなったとはいえ、攻撃的なコミュニケーションを行う生徒がいることは大きな課題。生徒のルールを守っている意識が向上したことは喜ばしい。</p> <p>【進路指導】</p> <p>例年以上に面接練習に取り組んだが、学力を求められる入社試験では基礎学力の不足が現れ厳しい結果となってしまった。来年度の向けての課題を明確にする必要がある。</p> <p>【学校運営】</p> <p>今年度、生徒指導や体育祭・文化祭に意欲的に取り組んだことから、教員には「まだまだ取り組むべき課題がある」との認識が高まっている。学校自己診断では、生徒の肯定的回答が増加している項目でも教員は前年度より肯定的回答が減少している。これは課題意識の表れである。</p>	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2・3年生は集合も早く、体育館の発表も増えたが集中できていた。 ・文化祭の取組みをみて、先生が生徒を引っ張ってくれているのがよくわかった。 ・中学校では文化祭にプロの演劇を見せて、レベルアップを図ることもある。 ・ダンスもレベルの高いものが多かったが、それだけに舞台関係の設備の充実が望まれる。 <p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校自己診断アンケートから学校が良くなっていることがよくわかる ・遅刻などの基本的な生活習慣についてはPTAとして呼びかけなど協力できる。 ・1年生の少人数クラス展開はよく頑張られていると思う。 ・この遅刻欠席数でこれだけ就職できているのは、丁寧な指導をされているからだと思う。 ・生徒の満足度の学年変化などの分析データもほしい。 ・保護者や教員の回答率を上げることが課題。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
実社会で役立つ学力の育成	(1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成 ・生徒指導の在り方 ・保護者との連携	(1) 生徒指導 ・少人数クラス編成(1年次6クラス9展開)によって生徒一人ひとりにきめ細やかな教科・生徒指導をおこなう。 ・1年次学年団を中心に「授業定着」「生活習慣の確立」「規範意識の醸成」をめざして教職員と生徒の信頼関係を構築し、次学年につなげる。 ・生活規律に乱れのある生徒に対しては、保護者懇談、家庭訪問により保護者と連携しながら改善されるまで粘り強く指導するとともに生徒の置かれている生活背景(入試後の中学校訪問)などを組織的に把握し、学校全体で情報共有しながら生徒との信頼関係を築く。 ・公開授業、保護者参観、家庭訪問、個別面談などを行い、家庭連携を図る	(1) 生活習慣と授業規律の確立 ・欠席者数の前年比から減少させる (1割減) ・長欠生徒の減少、前年比(1割減) ・授業の欠課・遅刻件数を下げる。(2割減) ・懲戒件数の前年比からの減少(1割減) (26年度) すべて 1/9 現在 欠席総数 10728 遅刻総数 19538 懲戒総数 86 不登校 113	(1) 生活習慣と授業規律の確立 担任の朝の電話かけなど丁寧な指導で改善 ・欠席15%減少(◎) ・長欠変わらず(△) ・欠課遅刻14%減少(○) ・懲戒件数の減少(△) 段階指導を導入したため懲戒件数はほぼ倍増。しかし、従来からの指導対象案件である。喫煙や暴力行為は減少している。
	(2) 基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上 授業定着による中途退学者の減少 ・授業力の向上	(2) 基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上 ・1年次に少人数クラス展開を行い、基礎学力の定着を行う。適宜、入り込みを行い学習の支援をする。 ・「わかる授業」「興味・関心を持てる授業」を計画し、生徒自らが学ぶ姿勢を促す。 ・「公開授業週間」を活用し、教員同士が授業について話す機会を設け「授業力」の向上を図る。	(2) 基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上 ・年次進級率の前年比より向上させる (1割増) ・学校教育自己診断の「授業」に対する生徒評価を前年比より向上させる(5ポイント) (26年度「わかる授業」・「興味関心を持てる授業」41)	(2) 基礎学力の充実と学ぶ意欲の向上 これまでは、授業を受けたくない生徒は食堂で待機させていたがすべての授業を受けることを徹底した。 ・わかる授業 H26 1.18→H27 1.61 36%向上(◎) ・年次進級率の向上 H26 74.6→H27 78.2 (○) ・生徒評価 H26 1.24→H27 1.53 23%向上(◎)
	(3) 課外活動の活性化 ・クラブ活動の活性化とボランティア活動の充実 ・地域イベントの参加	(3) 課外活動の活性化 ・生徒会を中心にクラブ紹介・入部活動やボランティア活動を積極的に取り組む。 ・ものづくり系列など、授業で製作した成果物の発表などで地域イベントに参加する。	(3) 課外活動 ・クラブ入部率、30%以上に上昇させる ・おそうじボランティアの参加者数の増大。(1割増) ・地域イベントへの参加やボランティア活動の増加 (3~5回) (26年度 加入率28% 参加数 80名 参加3回)	(3) 課外活動 ・クラブ加入率18%(△)ただし、サッカー部及びアチェリ一部が夏にクラブ合宿を実施 ・おそうじボランティア参加者100人(◎) 昨年度まではクラブ活動参加者が中心であったがクラスでの参加も増えてきた。 ・イベント参加3回(○) 朝の挨拶運動やはつが野祭りに参加した

府立和泉総合高等学校

<p>働く意欲の育成や系統的なキャリア教育の確立</p>	<p>(1)キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演など外部人材の活用 1年次から系統的な実施計画 <p>(2)進路意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 意識啓発 実践指導 	<p>(1)「キャリア教育・職業教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師によるガイダンスや講演を進路意識の啓発に活用する。 地元企業の協力を得て、イベントや授業で技術指導や講話を受ける機会を増やす。 1年次「かんたん工業」の授業で「ものづくり」の大切さに気づかせ、キャリア教育・職業教育を推進する。 <p>(2)進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次より就職活動に求められる基本的な礼儀や言葉遣いを身につけさせる。 日々の声掛けで、社会では情報伝達・処理・応用がいかにか重要であるかに気づかせ、言語表現力を伸長する。 1年次から進路説明会など開催して、興味・関心をもたせ、インターンシップ、資格取得の参加を促し、進路に向けた動機づけを行う。 	<p>(1) キャリア教育・職業教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の生徒、保護者の進路説明・理解満足度の向上。(5ポイント増) (26年度「ガイダンスはわかりやすい」37) 生徒の就職先未定率、前年比より低下させる(1割減) (平成26年度 進路未定者数 18%→13%へ) (平成26年度 就職内定率1次 76%) <p>(2) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校幹旋による就職希望者率を前年比より向上。(1割増) 面接指導の徹底と情報伝達力の向上 生徒個人の指導回数を5回以上 就職内定率の前年比より上回らせる(5分増) インターンシップ、資格取得者の増加(1割増) 	<p>(1) キャリア教育・職業教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒満足度(◎) 生 H26 1.14→H27 1.61 保 H26 1.32→H27 1.68 外部講師などを積極的に導入した。(3回) (2) 進路指導 学年全体の面接指導や朝の自主学習会などに取り組んだが、筆記試験での成績が伸びず厳しい結果となっている。 学校幹旋 H26 18%→H27 46%(△) 進路未決定 H26 18%→H27 13%(◎) H26 →H27 就職内定率(△) H26 →H27 ・面接指導6回(◎) ・インターンシップ(△) 1 ・資格取得者(△)
<p>安心・安全・快適な学校づくり</p>	<p>(1) 健康管理と教育相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会の活用 教育相談 <p>(2) 危機管理と安全・安心な学校づくり</p> <p>(3) 施設設備の改善</p>	<p>(1)健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 年2回開催する学校保健委員会により生徒の健康管理の大切さを啓発する。 生徒保健委員会が健康管理の啓発活動ができるように支援する。 事例検討会や配慮生徒の連絡会を開催して、教育相談活動を全体化し、学年ごとに相談員の機動性が発揮できるよう改善する。 <p>(2)危機管理と安全で安心な学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時を想定し、教職員がとるべき行動をより明確化し、周知徹底するとともに生徒の危機回避行動を訓練する。 人権計画、学校保健・安全衛生の計画を策定して、安全・安心な学校づくりを徹底する。 生徒や保護者に相談窓口を周知する。 <p>(3)校内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 老朽化した施設設備の改修工事を計画的に進め、生徒にとって快適な施設環境を整える。 	<p>(1)健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒保健委員会の健康保持活動と保健便りによる心と体の健康意識啓発。(委員の衛生・安全行事参加) 各外部機関との連携を図り、欠席・長欠生徒の減少。 <p>(2)危機管理と安全で安心な学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 880万人防災訓練にも参加して、年2回実施し、緊急時の態度を養う。(学校自己診断評価5ポイント増) 消防署と連携したAED講習会(教員・生徒)の実施(平成26年度 緊急対策理解 37) 学期に2回程度の人権・教育相談など事例検討会や職員研修を行い意識を高め、生徒の生活背景を理解した指導により、懲戒件数を減らす。 メール便を活用し、相談窓口を周知することで家庭との連携を強化し、学校教育自己診断の学校情報周知の数値を増加。(5ポイント増) <p>(3)校内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設満足度前年比より向上させる(5ポイント増) (平成26年度 施設設備に満足 27) 	<p>(1)健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任や保健室からの粘り強い指導で、内科検診・歯科検診・検尿の受診率が向上した。 内 H26 94%→99% 歯 H26 97%→99% 尿 H26 92%→95%(◎) ・長欠(△) (2)危機管理と安全で安心な学校 ・非常時(◎) H26 1.09→ H27 1.58 ・教員研修2回(○) ・学校情報(◎) H26 1.74→ H27 1.98 (3)校内環境(◎) H26 0.82→ H27 1.21 体育館の耐震工事やトイレ改修だけでなく、周年行事で体育館の舞台の照明改修が実施できた。